

京都民医連中央病院の
新築移転から1年とこれから

京都民医連中央病院 事務次長

高尾 勝

昨年11月新病院に移転後1年が経ちました。移転後にコロナ禍が発生するなど大変な状況が続いていますが、みなさまのご協力のもとで新病院の運営は軌道に乗り、経営も計画水準に近づきつつあります。みなさまありがとうございます。

移転直後は、入院患者数確保などの点で描いていた医療活動の軌道に乗り切れない状況が続きました。ようやく2月に償却前利益を黒字に転換、3月もつづけて黒字を確保し、いよいよ本格的に医療活動を軌道に乗せようとした時期に、新型コロナウイルス感染拡大を迎えました。

中央病院では、2月に帰国者・接触者外来、3月からコロナ疑い患者の入院、さらに京都府からの要請を受け、5月から感染者専用の病床を設けて入院を開始しました。受入れは6月末でいったん終了しましたが、8月より再度の要請で再開、5月以降累計で59名を受入れています。発熱外来では686名、PCR検査は778件実施しました(※入院・外来とも11月29日時点)。

職員は大変なストレスの中、万全の感染防止対策を取りながら、力を合わせて断らない医療を実践し、地域包括ケアを支えてきました。

そうした中、右京医師会との連携が深まっています。このまま新型コロナウイルス感染が拡大すれば地域医療が崩壊する。中央病院には断らずに発熱者を診てもらいたい。そのために右京医師会としても中央病院を支援したいということ、8月から会長を始め9名の医師会の先生方に当院の発熱外来へ支援をいただいています。会長からは「右京区に京都民医連中央病院がなかったら一体どうなっていたか」とのお声も頂くほど、かつてない地域連携の深化が進んでいます。

経営面では、緊急事態宣言後の一時期赤字に落ち込みましたが、7月黒字に転換し、10月ついに予算を達成することができました。償却前利益累計でも、念願の黒字に転換しました。課題であった入院数は8月748とはじめて700台に乗せ、目標の760に近づいています。また4月の診療報酬改定で新設された施設基準の届出などにより急性期病床の日当円が底上げされ、10月は目標の58,000円にあと400円まで迫っています。計画した新病院の姿に一歩ずつ近づいています。

もし1年前の旧病院の時代にコロナ禍が来ていれば、とてもたかえる状況ではなかったと思います。私たちは感染防止の観点から不ばらしい病院を建設できたことで、どんな状況になっても地域医療を支えていけることに確信を持っています。

京都民医連中央病院の総合移転という歴史的事業を成し遂げ、「断らない医療を実践する病院」、「地域を支える病院」作りを進めたいと思います。新病院の機能をフルに活用し、京都保健会全体と共同組織の力、そして地域連携の力で、コロナ禍を何としても乗り越えましょう！

【償却前経常損益】 比較 (千円)

